

上野通明さん応援レポート

目黒パーシモンホール未来の音シリーズ

vol.23 上野通明 チェロ

2016年1月17日(日) めぐるパーシモンホール

これからの時代を響かせる若手演奏家の今を聴く

めぐるパーシモンホール。移転した東京都立大学の跡地に建てられた、目黒区立のホールである。一帯は「めぐる区民キャンパス」として活用されており、図書館や体育館などの施設が整備されている。

敷地内に入ると、光に照らされるガラス張りの建物がそびえ立つ。

このあたりは、かつて柿を積んだ荷車が行き交ったと言われる目黒区柿の木坂地区。その「柿」(英語:persimmon)にちなみ、「パーシモンホール」と名付けられている。

抜群の音響性能により生の音を存分に味わえる大ホール。シックで落ち着いた雰囲気の小ホール。単独での利用も可能なりハーサル室・練習室などを備えている。

「未来の音シリーズ」は、これからの時代を響かせる若手演奏家にスポットをあてた、めぐるパーシモンホール・オリジナルの演奏会。本日の上野さんのリサイタルが、シリーズ23回目となる。

コンサート・フライヤーには、「・・・今後、様々な進化・変化を遂げていくであろう演奏家たちの現在を表現するプログラムをお届けします。彼らの今を聴き、未来に想いを馳せるひとときを」の文章が。20歳の上野さん、まさにぴったりだ。



めぐるパーシモンホール外観

めぐるパーシモンホール
未来の音シリーズ

これからの時代を響かせる。若き演奏家たちの「今」を聴く。

2016年
1月17日(日) 14:30 開演 15:00 開演

めぐるパーシモンホール 小ホール

Program
ベートーヴェン | チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 Op.102-1
シューマン | 民謡風の5つの小品 Op.102
ドビュッシー | チェロ・ソナタ
シューベルト | アルペジオネ・ソナタ イ短調 D.821
ラフマニノフ | チェロ・ソナタ ト短調 Op.19

チケット料金 | 全席定席 ¥2,500

チケット取扱 | めぐるパーシモンホール チケットセンター
電話 | 03-5701-2984 (税込) 受付
オンライン | <http://www.persimmon.or.jp/>
イープラス | <http://eplus.jp>

vol.23

上野通明

チェロ

ピアノ | 須関 裕子
Hiroko Suseki

主催 | 目黒区立目黒区立文化芸術振興局
めぐるパーシモンホール
TEL: 03-5701-2983
緊急連絡先 | 都立大学駅より徒歩7分

meguro
persimmon hall

© Makoto Ito

年末から演奏会続きだった上野さん、1月だけでも本日の演奏会で5回目と、多忙な日々が続いている。

本日は上野さんのソロ・リサイタル。ベートーヴェン、シューマン、ドビュッシー、シューベルト、ラフマニノフとチェロの名曲を揃えたプログラムが予定されており、上野さんが、名曲達とどのように対峙するのが、とても楽しみである。

本日のチケットは早々に完売。補助席を開放しても足りず、補助椅子席が用意されたほど。客席は、すでに多くの方方で埋まっている。



チェロの名曲&難曲を揃えた意欲あふれるプログラム



演奏会が始まる。

最初の曲はベートーヴェンの「チェロソナタ第4番」。ゆったりと唄うように始まった曲は、突如軽快なメロディーへと変化する。渋くなるように、明るく弾むように。美しい音色に魅了される。ピアノとの掛け合いも美しく。

次の曲はシューマンの「民族風の5つの小品」。リズムカルに、ゆったりとのびやかに、はたまた哀感を漂わせ、なめらかに情熱的に。様々な曲運びで聴かせてくれた。

3曲目は曲想も打って変わり、深く心に染み入るような憂鬱で物悲しいシューベルト「アルペジオーネ・ソナタ」。楽章を追うにつれ、おおらかに唄うような旋律、軽やかな旋律、大きく広く響く音色。集中し、気持ちを乗せて演奏する上野さんの姿は、ときに成熟ささえ感じさせるほど。見た目の若さと、奏でられる大人っぽい音色とのギャップに、客席の皆様もさらに魅せられている様子。大きな拍手と高らかなブラヴオーの声。



開演前の様子



後半はドビュッシー「チェロ・ソナタ」でスタート。表情のある曲想を、たっぷりとした音色で奏でる。ピッチカートが入る2楽章は、ジャズを彷彿させるかのよう。独特で神秘的ともいえる曲調と、上野さんののびやかな音色がマッチして、申し分なく聴かせてくれた。

ラストの曲はラフマニノフの「チェロ・ソナタ」。温かみのある音色が奏でられる。大きく、ゆたかに。曲と一体化する集中力に圧倒される。ピアノの音色も朗々と。ラストに向けて勢いよく。大きく、大きく唄いあげて、華々しく曲が終わった。客席中からブラヴオーの声。鳴り止まぬ拍手。アンコールにはサン＝サーンスの「白鳥」で応えてくれた。

大好きな曲を集めたというプログラム、どの曲も聴きごたえたっぷりの名曲かつ難曲で、とても贅沢な時間であった。

5曲のうち2曲は初披露の曲。演奏会が続く多忙さの中、見事に仕上げで聴かせてくれた。



ドイツ留学生活を楽しみながら、変化し続ける日々

終演後のホールでは、
「お若いのに素晴らしい表現力・・・」
「曲の解釈が大人っぽいわ～・・・」
「質の高い演奏に驚きました。これからの成長が楽しみです」と称賛の声があちらこちらで。

終演後の楽屋で上野さんに話を聞いた；

—本日の選曲はご自身で？；
「ただただ好きな曲を集めました。どの曲も素晴らしい曲なので、演奏できることがうれしくて・・・。楽しめたと思います」
「・・・シューマンとラフマニノフは初めて披露しました。ラフマニノフはピアノが大変な曲なのですが、須関先生に素敵に弾いていただいて」

—一年末から演奏会続き、しかも難しい曲ばかり、準備も大変だったのでは？；
「・・・直前の演奏会の曲を仕上げながら、先の演奏会の曲を準備するという状況でした。この年末年始は予定が押して大変だという自覚があったので、ドイツにいるころから、ひたすら練習していました」。いや、お見事でした。

—ドイツ生活はいかがですか；
「・・・先生が音の鳴らし方に厳しい方なので、とても刺激を受けています。倍音の響き、音程間隔などに注力しています」
「・・・初めての一人暮らし。楽しんでます！」

<演奏会概要>

◆出演

上野通明(チェロ)
須関裕子(ピアノ)

◆プログラム

ベートーヴェン
チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 Op.102-1
シューマン
民謡風の5つの小品 Op.102
シューベルト
アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D.821
ドビュッシー
チェロ・ソナタ
ラフマニノフ
チェロ・ソナタ 短調 Op.19

◆アンコール曲

サン=サーンス | 白鳥



高校生の頃からお世話になっているピアノの須関先生と

3日後には、国内で在学する桐朋音楽大学の定期試験。そのあとはドイツに戻り、また2月の演奏会に来日するという、引き続き多忙な毎日。

様々なことを吸収し、どんどん変化していく上野さん。「若き演奏家の『今』」を味わう「未来の音シリーズ」であるが、「今」すら一瞬であるかのよう。

上野さん、素敵な演奏でした。
一時帰国の折には、また聴かせてください！



楽屋で囲まれて

3月12日には、同じめぐろパーシモンホールで、山根一仁さんとのデュオが予定されている。会場には、そちらのお知らせも掲示されていた。



【コンサート・フライヤー(表)】

めぐろパーシモンホール 未来の音シリーズ

これからの時代を評かせる、若き演奏家たちの「今」を聴く。

2016年

1月17日(日) 14:30 開場 15:00 開演

めぐろパーシモンホール 小ホール

Program

ベートーヴェン | チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 Op.102-1

シューマン | 民謡風の5つの小品 Op.102

ドビュッシー | チェロ・ソナタ

シューベルト | アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D.821

ラフマニノフ | チェロ・ソナタ ト短調 Op.19

チケット料金 | 全席定席 ¥2,500

チケット詳細販売中

チケット申込 | めぐろパーシモンホール チケットセンター

電話/窓口 03-5701-2904 (10:00 - 19:00)

オンライン <http://www.persimmon.or.jp/>

イープラス <http://eplus.jp>



vol.23

上野 通明

チェロ

ピアノ |
須関 裕子
Hiroko Suseki

主催 | (公財)日東区芸術文化振興財団
めぐろパーシモンホール
TEL. 03-5701-2913
東急東横線「都立大学駅」より徒歩7分

 meguro
persimmon hall

2009年、13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクールにて日本人初の優勝を遂げ、2014年の第21回三ハネス・プラームス国際コンクール第1位獲得も記憶に新しい未来を担うチェリストが、今後、自らの重要なレパートリーとなるであろうチェロの名曲の数々と対峙する。

【コンサート・フライヤー(裏)】

めぐろパーシモンホール 未来の音シリーズ

これからの時代を響かせる若手演奏家にスポットをあてる「未来の音」シリーズ。今後、様々な進化・変化を遂げていくだろう演奏家たちの現在を表現するプログラムをお届けします。彼らの今を聴き、未来に思いを馳せるひとときを。

vol. 23 上野 通明 <チェロ> Michiaki Ueno, Cello



バウバグアイ生まれ、5歳よりチェロを始め、幼少期をスペイン・バルセロナで過ごす。
2009年13歳で韓国スウォンで開催された第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクールにて日本人初の優勝。第6回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞を併せて受賞。2012年第10回東京音楽コンクール弦楽器部門第2位、2014年第21回ヨハンネス・ブラームス国際コンクール第1位。
これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ロシア交響楽団など国内外のオーケストラと多数共演。
韓国 KBS テレビ「クラシックオデッセイ」、テレビ朝日「匿名のない音楽会」、NHK-BS「クラシック倶楽部」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。
岩谷時子音楽文化振興財団第1回「Foundation for Youth」、第6回「岩谷時子賞奨励賞」受賞。
日本演奏家連盟東京エンジェル基金、ロームミュージックファンデーション、第44回江崎記念財団奨励学生、日本ヴァイオリン特別楽器貸与対象者。
現在、桐朋学園大学音楽学部シリスト・ディプロマ・コース全額免除特待生。
これまでに故郷帰省一、イニャキ・エチャバル各氏、現在は毛利伯母氏に師事している。

<ピアノ> 須関 裕子 Hiroko Suseki, Piano

桐朋学園大学音楽学部を卒業、同研究科を首席修了。桐朋女子高等学校音楽科2年在学中に、第2回チェルニー・ステファンス国際ピアノコンクールにて第1位、併せてステファンス賞、遠藤静子賞受賞。第18回園田高弘賞ピアノコンクール第3位。第18回宝塚ベガ音楽コンクール第1位。ドイツで行われた第3回国際室内楽アカデミーにてグランプリを受賞。秋山和豊氏指揮・大阪フィルハーモニー交響楽団、鈴木勇美氏指揮・静岡交響楽団等と協奏曲を共演。ソロ活動のほか、アンサンブル奏者として国内外の多くの演奏家の信頼も厚く、近年では増田氏のリサイタルやCD等で共演している。
これまでに梅吉薫子、寺西陽子、ミハイル・ヴォスクレゼンスキー、野平多美の各氏に師事。
現在、桐朋女子高等学校・桐朋学園大学非常勤講師（ナンバリズムック）。



未来の音シリーズ



vol. 22
毛利 文香 <ヴァイオリン>
Fumika Mohri, Violin
2015.12.12 Sat.
14:30 開場 / 15:00 開演
チケット発売中



vol. 24
岡田 奏 <ピアノ>
Kana Okada, Piano
2016.02.21 Sun.
14:30 開場 / 15:00 開演
2015.09.14 Mon. チケット発売

めぐろパーシモンホール

東京都目黒区八雲 1-1-1 TEL. 03-5701-2913
東急東横線「都立大学」駅より徒歩7分
乗車バス「めぐろ区民キャンパス」バス停まで
【台 34】 池袋駅→東武区民センター
【多摩 01】 多摩11駅→東武区民センター
【東 07】 品川駅→区民センター
【都立 01】 成城学園前駅→都立大学駅北口
*都立大学の敷地が広く、バスは区民センターまで利用ください。



【公演に際してのご注意】

- ・本演奏会のご入場はご遠慮ください。
- ・一度お求めたチケットは公演中止の場合以外はキャンセルできません。
- ・チケットの譲渡・譲り受け・持戻等をお断りする場合がございますので、ご了承ください。

【コンサート・パンフレット(表表紙)】

めぐろパーシモンホール
未来の音シリーズ vol.23

チェロ
上野
通明

2016年1月17日 | 日 | 15:00開演
めぐろパーシモンホール小ホール
主催 | 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団

【コンサート・パンフレット(1ページ)】

Program

ベートーヴェン (1770 - 1827)
Ludwig van Beethoven

チェロ・ソナタ 第4番 八長調 Op.102-1
Sonata for Cello and Piano No.4 in C Major, Op.102-1
I. Andante - Allegro vivace
II. Adagio - Tempo d'andante - Allegro vivace

シューマン (1810 - 1896)
Robert Schumann

民謡風の5つの小品 Op.102
5 Pieces in folk style Op.102
I. Mit Humor
II. Langsam
III. Nicht schnell
IV. Nicht zu rasch
V. Stark und markiert

シューベルト (1797 - 1828)
Franz Schubert

アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D.821
Sonata for Arpeggione and Piano in D minor, D.821
I. Allegro moderato
II. Adagio
III. Allegretto

————— 〈 休憩 20分 〉 —————

ドビュッシー (1862 - 1918)
Claude Debussy

チェロ・ソナタ
Sonata for Cello and Piano
I. Prologue - Lent, sostenuto e molto risoluto
II. Sérénade - Modérément animé
III. Finale - Animé, léger et nerveux

ラフマニノフ (1873 - 1943)
Sergey Rachmaninov

チェロ・ソナタ ト短調 Op.19
Sonata for Cello and Piano in G minor, Op.19
I. Lento - Allegro moderato - Moderato
II. Allegro scherzando
III. Andante
IV. Allegro mosso - Moderato - Vivace

*チラシ、ホームページ等でお知らせしておりました演奏順から変更させていただきます。
何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

Program notes

ベートーヴェン | チェロ・ソナタ 第4番 八長調 Op.102-1

ベートーヴェンの遺した5曲のチェロ・ソナタのうち、この第4番と第5番は1815年にリンケというチェリストのために作曲された。またこれらは、ベートーヴェンを支えた支援者であり、リンケとも交流があったエルデーディ伯爵夫人に献呈された。ベートーヴェン自身が“ピアノとチェロのための自由なソナタ”と記したこの曲は、全体が5つの部分で構成されている。ゆったりとしたチェロの助奏を受けてピアノが応えて始まる八長調のアンダンテが静かに終息すると、突如としてイ短調のアレグロ・ヴィヴァーチェが登場する第1楽章。第2楽章、冒頭の短いアダージョから連なるアンダンテでは第1楽章の主題が再び登場し、最終部のアレグロ・ヴィヴァーチェに、仕上げでクライマックスを迎える。

シューマン | 民謡風の5つの小品 Op.102

ライブツヒで作曲家としての名声を得る一方で心身ともに病弊していたシューマンは、家族と共にチェコとの国境に近いドレスデンに移り住んでから復調し、ここで多くの作品を書いた。この作品もその中のひとつで、グラーパーウというチェリストのために書かれ、グラーパーウのチェロとシューマンの妻クララのピアノによって初演された。踊るようなリズムの第1曲(ユーモアをもって)、まるで子守唄のようなゆったりとした第2曲(ゆっくりと)、哀愁漂う第3曲(速くなく、たっぷりとした音で)は例えてピアノが舞踏風のリズムを低く刻み、途中で長調に転じてチェロが明るく歌う。堂々と始まる第4曲(急ぎ過ぎず)にはピアノのアルペジオで流麗に進み冒頭が再現され終わる。最終曲の第5曲(力強く、はっきりと)が、まさに力強く情熱的に曲を結ぶ。

シューベルト | アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D.821

この名の通り、もともとはアルペジオーネという6本の弦を持つ楽器のために作曲された作品。チェロほどの大きさでギターとかけ合わせたような楽器であったというアルペジオーネが広い音域を持っていたということもあり、この作品でもチェロの幅広い音域が使われている。楽器自体は普及することなく表舞台から姿を消したが、シューベルトが書いたこの作品はチェロやヴィオラなどのために編曲されて残り、現在では特にチェロの重要なレパートリーとなり、愛されている。作曲されたのは1824年、シューベルトが27歳の頃。それまで体の不調に悩まされふさいでいたシューベルトだが、この年に滞在した土地では精神的に安定した時間を過ごしたようだ。また、この地域に根付いたハンガリーの風土から受けた影響がこの時期の作品に反映されており、この曲にもそれがみられる。第1楽章は、ピアノの前奏に続いてチェロが優美に現れ、途中には快活な明るさをみせる。第2楽章では優しい旋律がゆったりと歌われ、チェロの低音も印象的。途切れることなく続く第3楽章では所々にハンガリー風のメロディやリズムが顔をのぞかせる。

ドビュッシー | チェロ・ソナタ

1914年に始まった第一次世界大戦によって愛国心をかきたてられたドビュッシーは、自ら“フランスの音楽家”と名乗り、ラモーやクーランなどの自国の先人たちが用いた組曲の形式を引用して、様々な楽器の組み合わせの室内楽作品6曲をまとめて世に送り出そうとしていた。しかし、病に置かれたドビュッシーは、構想された6曲のうち3つを作曲したところで世を去ることになる。このチェロとピアノのための作品は、その第1曲として1915年に作曲された。第1楽章、ピアノの力強い歌いだしから導かれるようにチェロが堂々たる登場をみせ、メランコリックな旋律に続く。これらの旋律はその後姿を変えつつ現れる。第2楽章では、チェロのピチカートとそれに応えるピアノが不穏な印象を与える。途切れなく続く第3楽章は、一転して疾走するピアノで始まる。チェロとピアノが同じ旋律で追いかけあったかと思うと急にテンポを落とし、すぐにまた勢いよく走り出す、といった幅の広い緩急をみせながらフィナーレに至る。

ラフマニノフ | チェロ・ソナタ 短調 Op.19

幼い頃から音楽の才能を認められてきたラフマニノフは音楽学校も首席で卒業、作曲した作品も高い評価を得るなど、行く先には順風満帆の未来が待っているように見られた。しかし、初の交響曲が酷評を浴びてしまう。すっかり自信喪失し、精神的にも衰弱したラフマニノフはしばらく作曲することができなかったが、そのスランプを乗り越えると、現在も非常に高い人気を誇るピアノ協奏曲第2番を書き上げて大きな成功を収めた。この直後に書かれたのが、このチェロ・ソナタである。親交のあったチェリストと本人によって初演されたこの作品は、哀切な旋律を朗々と歌い上げるチェロと、希代のピアニストでもあったラフマニノフの面目躍如ともいえる華やかなピアノとが作品を通して魅力を放っている。静かな助走で始まり、続くメランコリックな旋律が印象的な第1楽章。切迫したチェロとピアノが跳ねつつ走る第2楽章。ここにもゆったりとした美しいメロディが挿入される。第3楽章は緩やかなピアノで始まり、同じ旋律をチェロがたどる。ピアノとチェロが交互に旋律を歌い、優雅な雰囲気を保ちながら大きな高揚をみせ、最後は消えるように終息する。最終楽章はピアノが勢いよく幕を開け、跳ねるようなチェロが続く。緩急を繰り返しながらラストに向けて力強く勢いよく突き進んでいき、華やかに終結する。

【コンサート・パンフレット(裏表紙)】

Profile

上野 通明

Michiaki Ueno, Cello



バラゴアイ生まれ。5歳よりチェロを始め、幼少期をスペイン・バルセロナで過ごす。
2009年13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール(韓国)にて日本人初の優勝。
第6回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞を併せて受賞。2012年第10回東京音楽コンクール弦楽器部門第2位。2014年の第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクールでは第1位を獲得した。これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ロシア交響楽団など国内外のオーケストラと多数共演。韓国 KBS テレビ「クラシックオデッセイ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-BS「クラシック倶楽部」、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。岩谷時子音楽文化振興財団第1回「Foundation for Youth」、第6回「岩谷時子賞奨励賞」受賞。日本演奏家連盟ホ次エンジェル基金、ロームミュージックファンデーション、江副記念財団奨学生。日本ヴァイオリン特別楽器貸与対象者。
現在、デュッセルドルフ音楽大学コンツェルトエグザメンコースにてピーター・ウィスベルウェイ氏に、また桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース全額免除特待生として毛利伯郎氏に師事している。

須関 裕子

Hiroko Suseki, Piano



桐朋学園大学音楽学部を卒業、同研究科を首席修了。桐朋女子高等学校音楽科2年在学中に、第2回チェルニー=ステファンスカ国際ピアノコンクールにて第3位。併せてステファンスカ賞、遠藤郁子賞受賞。第18回園田高弘賞ピアノコンクール第3位。第16回宝塚ベガ音楽コンクール第1位。ドイツで行われた第3回国際室内楽アカデミーにてグランプリを受賞。
秋山和慶氏指揮・大阪フィルハーモニー交響楽団、鈴木秀美氏指揮・静岡交響楽団等と協奏曲を共演。ソロ活動のほか、アンサンブル奏者として国内外の多くの演奏家の信望も厚く、近年では堤隆氏のリサイタルやCD等で共演している。
これまでに穂吉慶子、寺西昭子、ミハイル・ヴォスクレゼンスキー、野平多美の各氏に師事。
現在、桐朋女子高等学校・桐朋学園大学非常勤講師(ナンバリズミック)。

未来の音シリーズ

(チケットセンターにてチケット発売中)



vol. 24

岡田 奏 <ピアノ>

Kans Okuda, Piano

2016.02.21 Sat.

14:50 開場 / 15:00 開演

現在、パリ国立高等音楽院第3課程アーティスト・ディプロマ科に在籍し、フランク・ブレイ氏などに師事し研鑽をつんでいる岡田奏の日本での貴重な演奏機会。この驚々たるプログラム。お聴き逃しなく!

Program

ハイドン | ピアノ・ソナタ 八長調 Hob.XVI:50

プロコフィエフ | ピアノ・ソナタ 第2番 二短調 Op.14

リスト | ピアノ・ソナタ ロ短調